

# 建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度要綱

## (目 的)

第1条 建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度要綱（以下「要綱」という。）は、一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター（以下「財団」という。）が行う、建築環境総合性能評価システム（以下「CASBEE」という。）を用いた自主評価結果の登録に関する事項を定め、環境性能の優れた建築物の普及推進を図ることを目的とする。

## (定 義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

### 一 評価員

財団が定めるCASBEE評価員登録制度要綱における「CASBEE建築評価員」、「CASBEE戸建評価員」、「CASBEE不動産評価員」及び「CASBEEウェルネスオフィス評価員」をいう。

### 二 CASBEE評価ツール

「CASBEE-戸建（新築）」、「CASBEE-住戸ユニット（新築）」、「CASBEE-建築（新築）」、「CASBEE-建築（既存）」、「CASBEE-建築（改修）」、「CASBEE-短期使用」、「CASBEE-インテリアスペース」、「CASBEE-不動産」、及び「CASBEE-ウェルネスオフィス」をいう。なお、これらCASBEE評価ツールは、旧版についても含むものとする。

### 三 自主評価

評価員がCASBEE評価ツールを用いて建築物等を評価する行為をいう。ただし、建築物総合環境性能評価認証制度により認証を受けた物件は除く。

## (登録の対象)

第3条 登録の対象とする建築物又はプロジェクトは、次の各号のいずれかによる。

- 一 CASBEE-戸建（新築）、CASBEE-住戸ユニット（新築）により評価された建築物
- 二 CASBEE-建築（新築）、CASBEE-建築（既存）、CASBEE-建築（改修）、CASBEE-短期使用、CASBEE-インテリアスペース、又は自治体版CASBEEにより評価された建築物。
- 三 CASBEE-不動産により評価された建築物
- 四 CASBEE-ウェルネスオフィスにより評価された建築物
- 五 CASBEE-戸建（新築）、CASBEE-建築（新築）、CASBEE-不動産により評価された建築物のうち、建築環境SDGsチェックリストの評価も合わせて実施した建築物（認証評価済物件も含む）

## (申 請)

第4条 登録を申請しようとする者（以下「申請者」という。）は、財団に対し、申請書（様式1）、並びにCASBEE評価ツールの自主評価の評価結果シート（様式2）または（様式3）を提出しなければならない。

- 2 申請者は、対象建築物の建築主又は所有者とする。

## (登録、公表)

第5条 財団は次の各号に該当していることを確認した上で登録するものとする。

- 一 当該申請内容と自主評価の結果シートに不備がなく、かつ記載事項に漏れがないこと
  - 二 当該申請内容に明らかな虚偽がないこと
- 2 財団は、前項の規定の各号に該当しないと認める場合においては、その修正を求めることができる。

3 登録の項目は次に掲げるものとする。

- 一 登録番号
- 二 登録日
- 三 建築物の名称
- 四 評価日
- 五 評価ランク
- 六 申請者名
- 七 建設地又は所在地（住所表記のうち市区町村までを公表の範囲とする。）
- 八 建物用途（CASBEE 評価上の用途名とする）
- 九 評価員名（評価員登録番号）
- 十 CASBEE 評価ツール名、評価段階（評価段階は CASBEE-新築及び CASBEE-建築（新築）の場合にのみ公表する）及び評価タイプ（CASBEE-ウェルネスオフィスの場合にのみ公表する）
- 十一 評価結果シート

4 財団は、登録内容についてホームページにて公表する。

（有効期間等）

第6条 登録の有効期間は次の表に定める通りとする。

有効期間	自主評価に使用された評価ツール
登録日から3年	CASBEE-戸建（新築）、CASBEE-住戸ユニット（新築）、CASBEE-建築（新築）、CASBEE-建築（改修）、CASBEE-短期使用、CASBEE-インテリアスペース
登録日から5年	CASBEE-建築（既存）、CASBEE-不動産、CASBEE-ウェルネスオフィス

（登録料）

第7条 登録を申請する者は、別表1に定める費用を申請時に財団に納めなければならない。

（登録内容の変更 変更届の提出）

第8条 第6条に定める有効期間内に、申請書に記載された登録内容に変更が生じた場合には、申請者は、財団に変更届（様式2）を提出し、登録、公表内容を変更することができる。

2 財団は、変更届に従い、登録内容を変更し公表する。

3 本条第1項に示す登録内容の変更のうち、申請者名に変更が生じた場合、第4条に基づき新たに申請を行う必要がある。

(登録の取消)

第9条 財団は、次の各号のいずれかに該当する場合には、その登録を取消することができる

- 一 登録を受けた者が登録の取消しを申請した場合
- 二 登録内容に瑕疵や偽りが判明した場合
- 三 偽りその他の不正の手段により登録を受けたことが判明した場合

2 財団は、登録を取消した場合は、登録を受けた者に対し、登録を取消した理由を付してその旨を通知する。

3 財団の責に帰すべき事由以外の登録の取消しにおいては、登録料を返還しない。

(免責事項)

第10条 この登録は、登録を受けた建築物等が建築基準法その他関係法令に適合することについて保証するものではないものとする。

2 この登録は、登録を受けた建築物等に瑕疵がないことについて保証するものではないものとする。

3 財団は、自主評価の結果を保証するものではない。

(その他)

第11条 この要綱に定めるほか、本制度の事業運営上必要な事項については、財団が定めるものとする。

付 則

この規程は平成31年3月18日から施行する。

この規程は令和4年2月1日から施行する。

この規程の変更は令和4年4月24日から施行する。

(様式1 第4条1項関係：申請書)

年 月 日

一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター  
理事長 殿

(申請者)  
会社名  
氏名  
所在地

印

## 建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度 申請書

建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度要綱に基づく登録について、下記の通り申請いたします。この申請書及び自主評価結果に記載の事項は、事実と相違ありません。

### 記

項目	内容
評価者氏名・評価員登録番号	氏名： 評価員登録番号：
建築物の名称	
評価ランク	○ランク
評価日	
BEE値	○.○
申請者名	
建設地 (ホームページ公表は市区町村まで)	
建物用途	
評価ツール名/評価段階 認証タイプ (ウェルネスオフィス評価申請の場合のみ記入)	
SDGsチェックリストの評価	<input type="checkbox"/> あり (CASBEE認証物件は認証番号 ) <input type="checkbox"/> なし
構造・規模	<input type="checkbox"/> 木造軸組、 <input type="checkbox"/> ツーバイフォー、 <input type="checkbox"/> 鉄骨、 <input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート、 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 延べ面積： m <sup>2</sup>
連絡担当者 氏名 所属部署・役職 連絡先	TEL /FAX e-mail：
所在地	〒
備考	

以上

※申請者は、建築主又は建物所有者に限ります。

(様式2 第8条1項関係：変更届)

( 年 月 日)

建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度 変更届

一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター  
理事長 殿

(届出者)

会社名

氏名

所在地

登録内容に変更が生じたため、建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度要綱第8条第1項の規定に基づき、下記のとおり届け出ます。

記

1. 変更の内容

2. 変更の理由

※届出者は、建築主又は建物所有者に限ります。

(様式2-1 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-戸建の場合)

# CASBEE®-戸建(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル:

CASBEE-戸建(新築)2014年版

■使用評価ソフト:

CASBEE-DH\_NC\_2014v1.0

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	0		仕様等の確定状況	建物の仕様	一部確定
竣工年月	2014年●月●日	予定		持ち込み家電等	一部確定
建設地	●●●●●市		<備考>	外構の仕様	確定
用途地域	0			仮	
省エネルギー地域区分	6 地域				
構造・構法	0				
階数	2		0		
敷地面積	110 m <sup>2</sup>		評価の実施日	2014年●月●日	
建築面積	75 m <sup>2</sup>		作成者	○○○○	
延床面積	150 m <sup>2</sup>		確認日	2014年●月●日	
世帯人数	4		確認者	□□□□	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE=1.4** ★★★★★★

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B: ★★★★★★ B: ★★★★★★ C: ★★★★★★

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

戸建標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記②以外のオンサイト手法	73%
④上記④オフサイト手法	73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q2 長く使い続ける

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

#### Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア= 3.0

暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ

#### Q2 長く使い続ける

Q2のスコア= 3.0

長寿命に対する基本性能 維持管理 機能性

#### Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア= 3.0

まちなみ・景観への配慮 生物環境の保全と創出 地域の安全・安心 地域の資源の活用と住文化の継承

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

#### LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア= 4.3

総合的な省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫

#### LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア= 3.0

省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用 生産・施工段階における廃棄物削減 リサイクルの促進

#### LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする	Q2 長く使い続ける	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

(様式2-2 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-住戸ユニットの場合)

# CASBEE®-住戸ユニット(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-住戸ユニット(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-HU\_NC\_2016v1.0

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	〇〇邸		仕様等の確定状況	建物の仕様	0.00
竣工年月	201●年/●月	0.0		持ち込み家電等	0
建設地	0			外構の仕様	0
用途地域	0	0	〈備考〉		
省エネルギー-地域区分	6 地域				
構造・構法	0		外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください		
住戸ユニット階	●階/●階	0			
住戸ユニット位置	0	0	評価の実施日	201●年/●月/●日	
住戸形式	0	0	作成者	●●●●	
敷地面積	0 m <sup>2</sup>	0	確認日	201●年/●月/●日	
建築面積	0 m <sup>2</sup>	#####	確認者	□□□□	
延床面積	90 m <sup>2</sup>				
世帯人数	3	0			

2-1 住戸ユニットの環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.0</b> ★★★★★ ☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆</p> <p>住戸ユニット標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 99% ③上記②以外のオンサイト手法 99% ④上記オフサイト手法 99%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b> Q1のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b> Q2のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q3 住戸ユニット周辺の環境を豊かにする</b> Q3のスコア= 3.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 3.0</p>		
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b> LR1のスコア= 3.0</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b> LR2のスコア= 3.0</p>	<p><b>LR3 地球・地域・住戸ユニット周辺の環境に配慮する</b> LR3のスコア= 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする	Q2 長く使い続ける	Q3 住戸ユニット周辺の環境を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	LR3 地球・地域・住戸ユニット周辺の環境に配慮する

(様式2-3 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-建築(新築)の場合)

# CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	0
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分		年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	201●年●月 0.0	評価の実施日	201●年●月●日
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	201●年●月●日
延床面積	20,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 3.0

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 3.0

音環境 3.0 温熱環境 3.0 光・視環境 3.0 空気質環境 3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.0

機能性 3.0 耐用性・信頼性 3.0 対応性・更新性 3.0

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 3.0

生物環境 3.0 まちなみ・景観 3.0 地域性・アメニティ 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.0

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 2.9

建物外皮の熱負荷 4.0 自然エネルギー 3.0 設備システム効率化 2.5 効率的運用 3.0

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.0

水資源 3.0 非再生材料の使用削減 3.0 汚染物質回避 3.2

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.1

地球温暖化への配慮 3.3 地球環境への配慮 3.0 周辺環境への配慮 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境



(様式2-4 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-建築(既存)の場合)

# CASBEE®-建築(既存) 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(既存)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD\_BB\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2016年12月 0.0	評価の実施日	2014年7月8日
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月10日
延床面積	5,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

30%:☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 100%:☆☆ 100%超:☆☆

標準計算

- ①参照値 100%
- ②建築物の取組み 100%
- ③上記②以外のオンサイト手法 100%
- ④上記③のオフサイト手法 100%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 3.0

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.0

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.2

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 3.5

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.0

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

(様式2-5 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-建築(改修)の場合)

# CASBEE®-建築(改修)(改修後) 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(改修)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD\_RN\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観									
建物名称	新ビル	階数	地上12F								
建設地	〇〇県〇〇市	構造	S造								
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	〇〇人								
地域区分		年間使用時間	〇〇時間/年								
建物用途	事務所、物販店	改修後の想定使用年数	〇〇年								
改修竣工年月	2014年12月 0.0	改修工事期間	2014年9月1日～2014年12月10日								
新築時竣工年月	1960年3月	評価の実施日	2014年7月8日								
敷地面積	2,000 m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇								
建築面積	1,400 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月10日								
延床面積	10,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇								
改修目的	〇〇〇	現在までの主な改修履歴	〇〇〇								
		改修対象項目	<table border="1"> <tr><td>躯体</td><td>〇〇〇</td></tr> <tr><td>外装</td><td>〇〇〇</td></tr> <tr><td>内装</td><td>〇〇〇</td></tr> <tr><td>設備</td><td>〇〇〇</td></tr> </table>	躯体	〇〇〇	外装	〇〇〇	内装	〇〇〇	設備	〇〇〇
躯体	〇〇〇										
外装	〇〇〇										
内装	〇〇〇										
設備	〇〇〇										

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.1</b> ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.0</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 3.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 3.3</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 3.7</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.0</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>注) 改修における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。(省エネ改修、室内環境改善、外装の更新、高耐久化、情報化対応、コンバージョンなど)</p>	<p><b>その他</b></p> <p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、改修工事における廃棄物削減・リサイクル、改修による歴史的建造物の延命など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>注) 改修における「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>注) 改修における「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>注) 改修における「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>注) 改修における「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>注) 改修における「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>注) 改修における「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>

(様式2-6 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-短期使用の場合)

# CASBEE<sup>®</sup>-短期使用

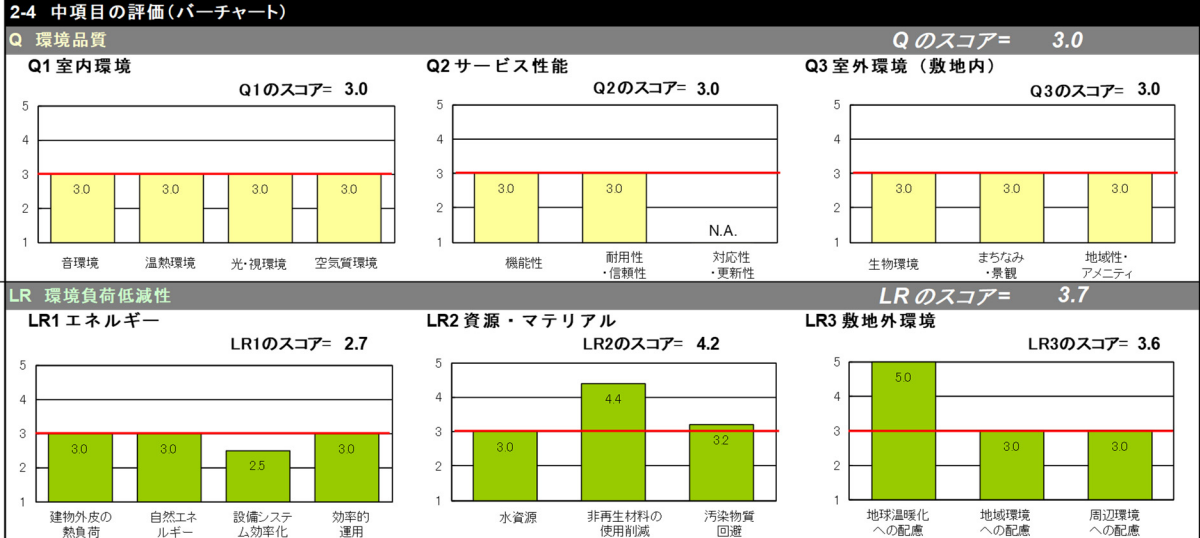
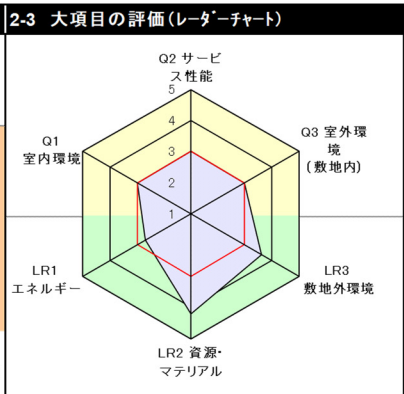
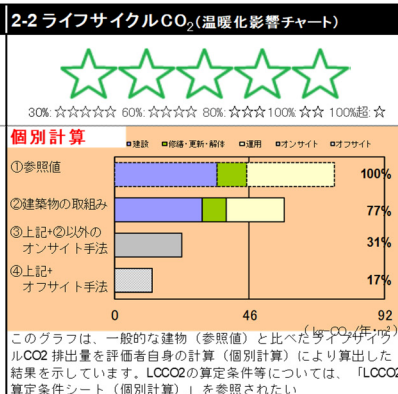
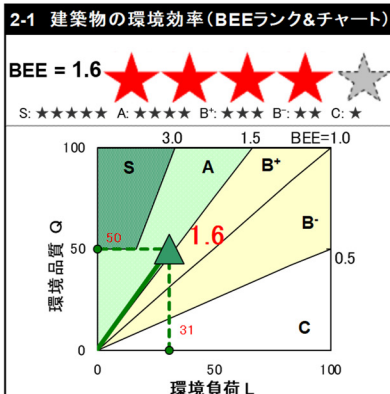
## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-短期使用2016年版

■使用評価ソフト: CASBEE-TC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	0
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分		日平均使用時間	XXX 時間/日(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	201●年●月 00	評価の実施日	201●年●月●日
使用期間	2016年6月~8月	作成者	〇〇〇
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	201●年●月●日
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇
延床面積	20,000 m <sup>2</sup>		

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



### 3 設計上の配慮事項

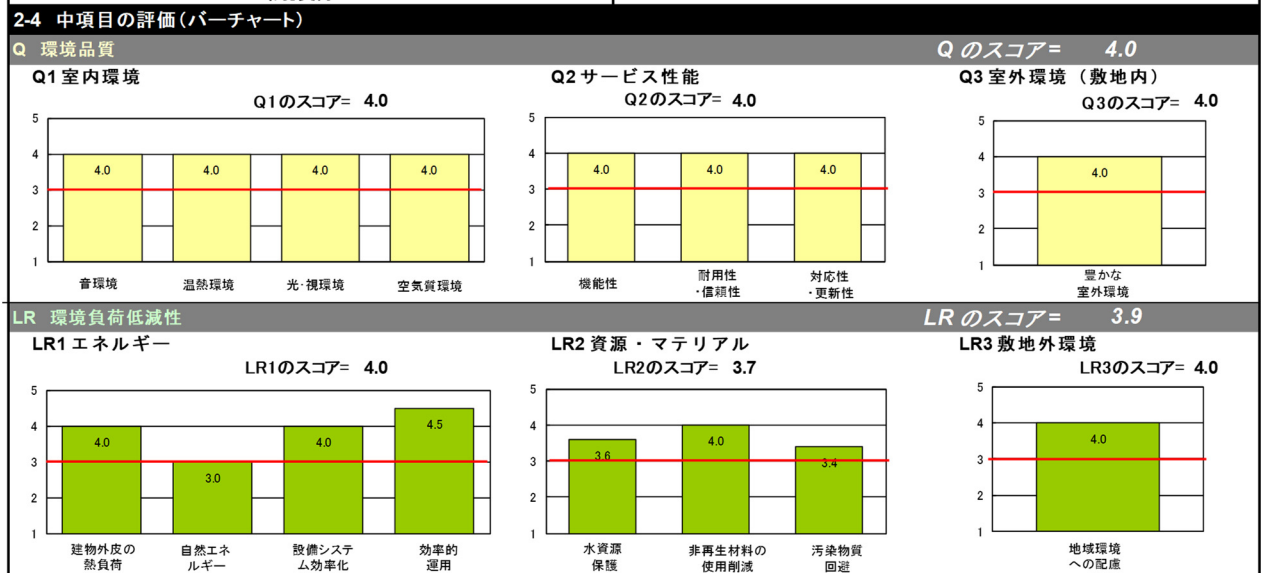
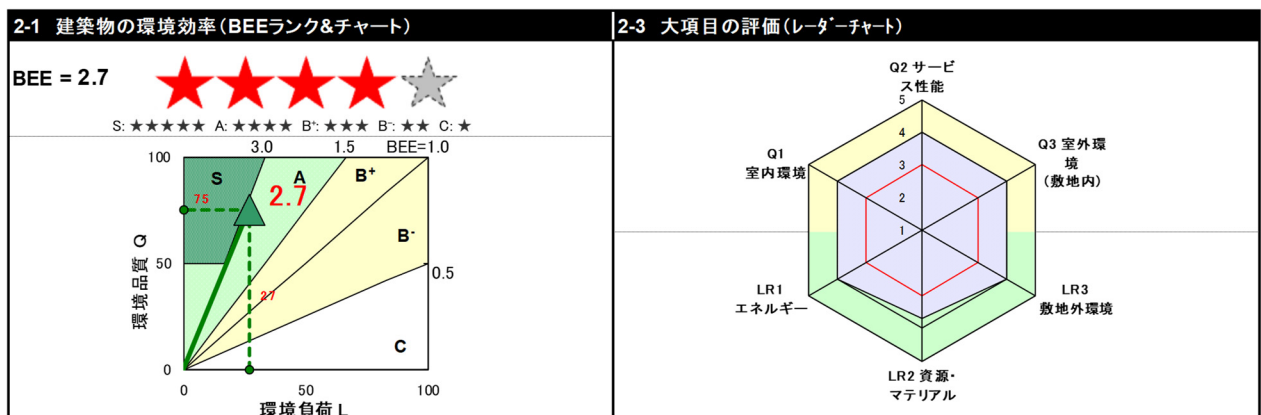
総合		その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

(様式2-7 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-インテリアスペースの場合)

# CASBEE<sup>®</sup>-インテリアスペース | 評価結果 |

■使用評価マニュアル：CASBEE-インテリアスペース 2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-IS\_2014(v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 評価対象概要		1-3 内観
建物名称	〇〇ビル	評価対象名称	〇〇サービス	パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	〇〇県〇〇市	評価対象用途	〇〇	
用途地域	商業地域、防火地域	使用開始	2014年7月11日	
気候区分		専用面積	XXX m <sup>2</sup>	
建物用途	事務所	専用部の階	地上〇〇F~〇〇F	
竣工年	2016年12月 0.0	平均居住人員	XX 人	
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	年間使用時間	XXX 時間/年	
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	評価の実施日	2014年7月8日	
延床面積	15,000 m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇	
階数	地上〇〇F	確認日	2014年7月10日	
構造	RC造	確認者	〇〇〇	



3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p>

(様式2-8 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-不動産評価の場合)

CASBEE®-不動産 【オフィス】 | 評価結果 |

建物概要	建物名称 ○○ビル 建設地 ○○県○○市○○○○ 用途地域 商業地域、防火地域 建物用途 事務所 竣工年月 19○○○○ 直近の大規模改修実施年月 20○○○○	敷地面積 9,000 m <sup>2</sup> 建築面積 8,500 m <sup>2</sup> 延床面積 50,000 m <sup>2</sup> 階数 地上○○F 構造 R/C造 所在地 住居地域 年層使用期間 ○○○	評価の段階 評価の実施日 20○○○○ 作成者 ○○○ 不動産評価員番号 20○○○○ 確認日 ○○○ 確認者 ○○○ 不動産評価員番号	運用段階評価 ○○○ ○○○ ○○○
------	---	---	--	-----------------------------

評価結果	総合評価 76.3 /100 (得点 / 満点) ★★★★★	S ランク: ★★★★★ 点 78 A ランク: ★★★★★ 点 66 B+ランク: ★★★★★ 点 50 B ランク: ★★★★★ 点 50
------	--------------------------------------	--

1. エネルギー・温暖化ガス

評価	最大得点	必須項目	指標	評価値
適合	25	省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリング、運用管理体制 省エネルギー基準以下、年間実績を把握し、ベンチマーク比較実施 テナントと共同で省エネ目標設定	一次エネルギー(目標値)	1,850 MJ/m <sup>2</sup> ・年
3.0	5	1.1 使用・排出原単位(計算値) 視検等 空調・照明・換気・給湯・昇降機の消費量 2次エネルギーは参考値	一次エネルギー(計画値) 二次エネルギー(C) CO <sub>2</sub> 排出量(T)	1,554.0 MJ/m <sup>2</sup> ・年 159.0 kWh/m <sup>2</sup> ・年 68.0 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
3.0	5	1.2 使用・排出原単位(実績値) 視検等 ビル全体の消費量 10フロア中、2フロアにデータセンターが入居	一次エネルギー(実績値) 二次エネルギー(C) CO <sub>2</sub> 排出量(T)	2,031.0 MJ/m <sup>2</sup> ・年 208.0 kWh/m <sup>2</sup> ・年 89.0 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
5.0	5	1.3 自然エネルギー 視検等 太陽光発電 出力100kW(12%)	利用率	12.0 %
20.0	36	合計		

2. 水

評価	最大得点	必須項目	指標	評価値
適合	10	目標設定、モニタリング、運用管理体制 視検等 水使用実績を把握	水使用量(目標値)	680.0 L/m <sup>2</sup> ・年
4.0	5	2.1 水使用量(計算値) 視検等 雨水利用を含む	水使用量(計画値)	680.0 L/m <sup>2</sup> ・年
3.0	5	2.2 水使用量(実績値) 視検等 雨水利用を含む	水使用量(実績値)	800.0 L/m <sup>2</sup> ・年
7.0	10	合計		

3. 資源利用/安全

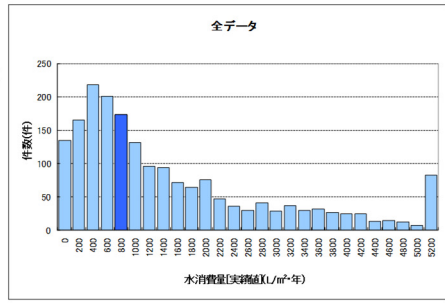
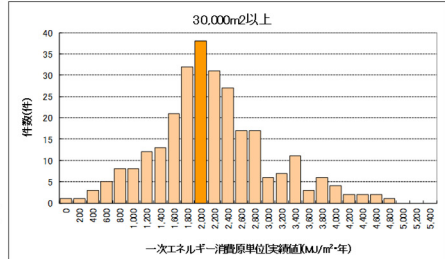
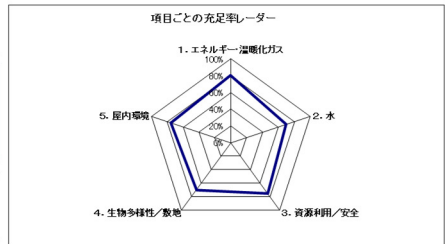
評価	最大得点	必須項目	指標	評価値
適合	5	新築基準への適合または95種、1種 視検等 1500㎡以上に向けた改修工事を実施済み		なし
5.0	5	3.1 高耐震・免震等 ① 耐震性 ② 免震・制振機能	①と②の点数の高い方で評価 免震設備を設置	
2.0	5	3.2 再生材利用 ① 躯体材料 ② 非構造材料	①と②の平均で評価する 躯体にリサイクル素材を用いていない 躯体にリサイクル素材を用いていない リサイクル材目録(非構造材)	0 品目
5.0	5	3.3 躯体材料の耐用年数 視検等 耐久性表示耐震等級3相当	経過年数+今後の想定耐用年数	75 年
3.0	5	3.4 主要設備機器の更新必要間隔/設置の自給率向上/維持管理 ① 主要設備機器 ② 設備(電力等) ③ 維持管理	平均値で評価 更新年数の平均値 自給率上の取組数 維持管理に関する取組数	15 年 3 ポイント 3 ポイント
15.0	20	合計		

4. 生物多様性/敷地

評価	最大得点	必須項目	指標	評価値
適合	5	特定外来生物、未特定外来生物、要注意外来生物を使用しない 視検等 外来生物法(栽培、輸入等)環境省が定める(要注意外来生物)を遵守		なし
3.0	5	4.1 生物多様性の向上 [2対象外の時は点数を倍]	②取組数による場合のポイント数	1 ポイント
4.0	5	4.2 土壌環境品質・フロンフリー/再生 視検等 法定調査実施、影響変更の届出、拡散防止、汚染の除去		なし
3.0	5	4.3 公共交通機関の接近性 視検等 徒歩距離が徒歩10分		なし
4.0	5	4.4 自然災害リスク対策 視検等 浸水、津波、斜面災害、地震の恐れはない。 水害、地震動のリスクがあるが有効な対策を実施	リスクの合計数	2 種類
14.0	20	合計		

5. 屋内環境

評価	最大得点	必須項目	指標	評価値
適合	5	建築物衛生管理の遵法または賛同高への適合 視検等 建築物衛生法の記録を保管しており、基準を準拠		なし
3.3	5	5.1 昼光利用 ① 自然採光 ② 昼光利用設備	①の点数×2.3+②の点数×1.3 開口率14% ライトレゾルブ設置	開口率 14.0 % 昼光利用設備 1 種類
4.0	5	5.2 自然換気性能 視検等 有効開口面積が居室面積の1/25		
4.0	5	5.3 眺望 視検等 全ての執務者が十分な屋外眺望を確保される窓を設置	天井高	2.0 m以上
11.3	15	合計		



**環境性能の特徴**

- ・建物の省エネルギー性能、及び節電に関する運用上の工夫により、エネルギー・温暖化ガスの項目が高い評価となっている。
- ・きめ細かいメンテナンスの実施により、法定耐用年数を上回る更新必要間隔となっており、資源利用/安全の項目で高い評価となっている。
- ・水の使用実績が、設備仕様や館内人数から想定される使用量を上回っており、運用上の工夫の余地があるものと考えられる。
- ・公共交通が徒歩の圏内にあり、また自然災害リスクの少ないことが、生物多様性/敷地の項目で評価点を高めている。
- ・採光面積、自然換気開口率なども高く、屋内環境の評価点を高めている。

評価機関、評価員記名欄

認証機関記名欄

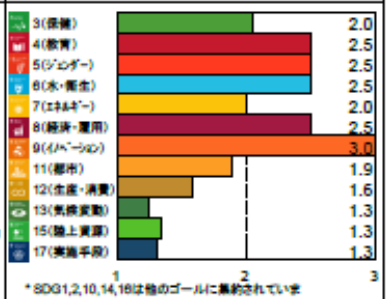
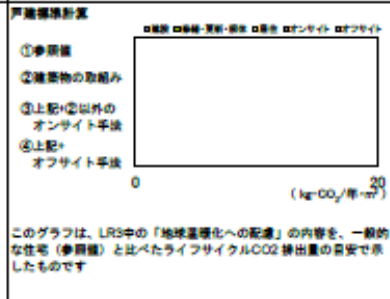
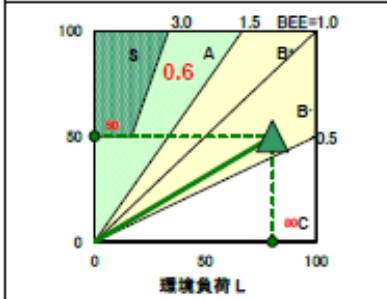
(様式3-1 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-戸建 建築環境SDGsチェックリスト評価の場合)

# CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト：CASBEE-DH\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	0		仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等	0.00
竣工年月	1900年1月	0.0		外観の仕様	0
建設地	0		<p>外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください</p>		
用途地域	0	0			
省エネルギー地域区分	地域				
構造・構造	0	0			
階数	0	0			
敷地面積	0 m <sup>2</sup>	0	評価の実施日		
建築面積	0 m <sup>2</sup>	#####	作成者		
延床面積	0 m <sup>2</sup>		確認日		
世帯人数	0	0	確認者		

2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
<p>BEE -0.6 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>~0% ★★★★★ ~50% ★★★★★ ~70% ★★★★★ ~100% ★★★★★ 100% ★★★★★</p>	



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする (Q1のスコア=3.0)

Q2 長く使い続ける (Q2のスコア=3.0)

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする (Q3のスコア=3.0)

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギーと水を大切に使う (LR1のスコア=1.2)

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす (LR2のスコア=2.3)

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する (LR3のスコア=1.7)

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする	Q2 長く使い続ける	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)  
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE<sub>h</sub>, Q<sub>h</sub>, LR<sub>h</sub>などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためhを省略した  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>2</sub>, LR<sub>2</sub>中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照されたい

(様式3-2 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-建築 建築環境 SDGs チェックリスト評価の場合)

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築評価(2021年SDGs対応版) | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分		年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、集会所、等	評価の段階	
竣工年	202〇年〇月 〇.0	評価の実施日	202〇年〇月〇日
敷地面積	5,000 m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建築面積	4,000 m <sup>2</sup>	確認日	202〇年〇月〇日
延床面積	32,300 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
<p>BEE #N/A</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★</p> <p>環境効率</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.0</p> <p>音環境 通気環境 光環境 空気質環境</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.0</p> <p>操作性 耐用性 対応性</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 3.0</p> <p>生物環境 立ち寄り 地域性・</p>
LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.0</p> <p>建物外皮の 自然エネルギー 設備システム 効率的</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.9</p> <p>水資源 再生生材料の 汚染物質</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア#N/A</p> <p>地球温暖化 地域環境 景観環境</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

(様式3-3 第4条1項関係：評価結果シート) (CASBEE-不動産 建築環境SDGsチェックリスト 評価の場合)

CASBEE-RE\_021v1

## CASBEE®-不動産 【オフィス】 評価結果

※使用評価マニュアル：CASBEE-不動産【オフィス】(2021年SDGs対応) v.1

建物概要		所在地		評価の前提		運用形態	
建物名称	〇〇ビル	所在地	〇〇〇	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
所在地	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	建築面積	〇〇〇	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
用途地域	商業地域、防火地域	延床面積	〇〇〇	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
建物用途	事務所	階数	地上〇〇F	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
竣工年月	19XX/XX/XX	構造	RC造	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
建設の大規模改修実施年月	20XX/XX/XX	平均居住人員	XX人	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態
		平均滞在時間	XX分	評価の前提	運用形態	運用形態	運用形態

項目	評価	最大スコア	指標	評価値
1. エネルギー/環境化	100	100	一次エネルギー(目標値)	1.2 MJ/m <sup>2</sup> ・年
1.1 使用・排出原単位(計測値)	25	25	一次エネルギー(計測値)	1 MJ/m <sup>2</sup> ・年
1.2 使用・排出原単位(算出値)	5	5	二次エネルギー(7)	1 kWh/m <sup>2</sup> ・年
1.3 省エネルギー(目標値)	0	0	CO2排出量(7)	1 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
1.4 省エネルギー(算出値)	0	0	一次エネルギー(算出値)	1 MJ/m <sup>2</sup> ・年
			二次エネルギー(7)	1 kWh/m <sup>2</sup> ・年
			CO2排出量(7)	1 kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
0.0	35	合計	利用率	1%

項目	評価	最大スコア	指標	評価値
2.1 水使用量(計測値)	5	5	水使用量(目標値)	1 L/m <sup>2</sup> ・年
2.2 水使用量(算出値)	0	0	水使用量(計測値)	1 L/m <sup>2</sup> ・年
2.3 水使用量(算出値)	0	0	水使用量(算出値)	1 L/m <sup>2</sup> ・年
0.0	10	合計		

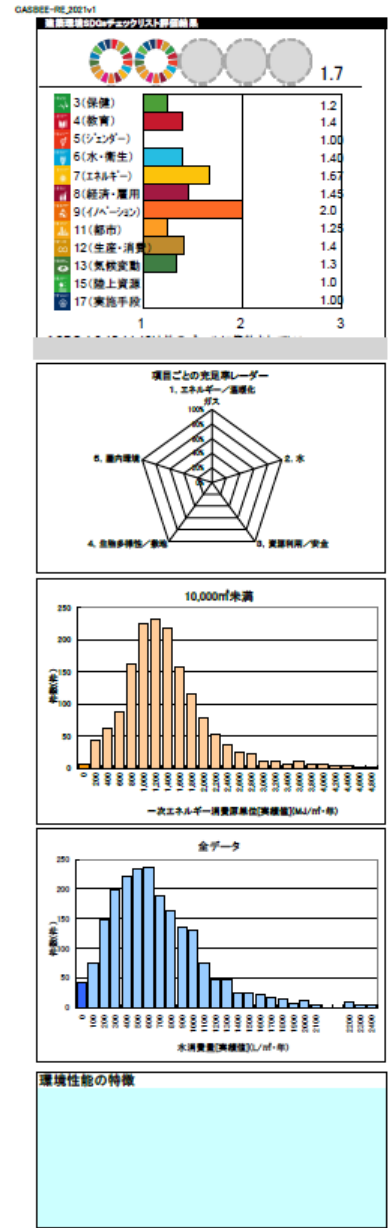
項目	評価	最大スコア	指標	評価値
3.1 耐用性	0.0	5	3.1.1 耐用性	なし
3.2 再生性	0.0	5	3.2.1 再生性	なし
3.3 廃棄物の削減	0.0	5	3.3.1 廃棄物の削減	なし
3.4 更新	0.0	5	3.4.1 更新	なし
3.5 維持管理	0.0	5	3.5.1 維持管理	なし
0.0	20	合計		

項目	評価	最大スコア	指標	評価値
4.1 生物多様性(算出)	5	5	4.1.1 生物多様性(算出)	なし
4.2 生物多様性(算出)	5	5	4.2.1 生物多様性(算出)	なし
4.3 公共交通機関の接近性	0.0	5	4.3.1 公共交通機関の接近性	なし
4.4 自然災害リスク	5	5	4.4.1 自然災害リスク	なし
0.0	20	合計		

項目	評価	最大スコア	指標	評価値
5.1.1 自然採光	0.0	5	5.1.1 自然採光	なし
5.1.2 自然採光	0.0	5	5.1.2 自然採光	なし
5.2 自然換気	5	5	5.2.1 自然換気	なし
5.3 自然換気	5	5	5.3.1 自然換気	なし
0.0	15	合計		





(別表1 第7条関係：登録料)

### CASBEE 自主評価登録費用

建築物総合環境性能評価システム自主評価登録制度要綱第7条に基づく登録料は次のとおりとする。建築環境SDGsチェックリスト評価についても同様の金額とする。

(税込)	
評価ツール	金額
CASBEE-戸建（新築）、CASBEE-住戸ユニット（新築）	11,000 円
CASBEE-建築（新築）、CASBEE-建築（既存） CASBEE-建築（改修）、CASBEE-短期使用 CASBEE-インテリアスペース、CASBEE-不動産、 CASBEE-ウェルネスオフィス、自治体版CASBEE、	33,000 円

注) 有効期間内の評価認証済物件でかつ建築環境SDGsチェックリスト評価を登録する場合は、上記金額の1/2とする。